



# 地本春闘総行動

## 3/4

NO. 564  
発行  
2006年3月15日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部

三月四日春闘総行動が各支部で展開されました。今年の春闘は各支部で企画し行われ、新潟支部では一三時から春闘勝利決起集会開催・その後、新潟駅前で宣伝行動が展開さ

れました。  
集会は新潟市トークイン新潟で開催全体で三十九名結集し地域の仲間から職場の状況や春闘の取組みなどあ

# 春の力を發せながそ



## 大幅な賃上げを迫っていく

開会あいさつ  
新潟支部儀藤書記長から  
『賃上げに対してせいっぱい努力している。結果したみなさんから取組みを報告、出し合って春闘勝利に向けてがんばっていきたい。増収の背景の中、大幅な賃上げを迫っていく。勝ち取っていく。お互い確認していきたい』とあいさつがありました。



## 一歩前へ出行動を 渡新潟支部委員長

地域の仲間と共に集会を開催したいと思い、それに応えてくれた地域の仲間へ感謝したい。春闘という状況が厳しいと受けとめる。

労働者側の姿勢=要求額の低さ。大企業の収益は大幅に伸びている。(内部留保 96社~ひとり当たり1千万円) 企業の社会的責任が果たされていない。 社会保障制度の改悪・定率減税の廃止が増税に。年収500万円の労働者は42万円の増税。

春闘は原点に立った闘いをつくっていく。大きな柱は規制緩和にある。労働者・国民にあたえる影響が大きくなってきている。全体の怒りを力に変えて一歩前へ出す行動をしていきたい。



続いて、新潟支部渡辺委員長のあいさつ、地本守橋委員長から『いなほ14号』脱線・転覆事故についての報告や安全問題についてあいさつがありました。  
地域の仲間から、春闘の取組みや規制緩和についての、職場の実態が報告されました。国労からも各系統別に職場から、安全にかかわる問題点、職場の実態が報告されました。  
集会終了後、新潟駅前で宣伝行動が行なわれ新潟支部の春闘一日行動が終了しました。

地域の仲間からのあいさつは裏面に記載しましたので、ぜひ読んで下さい。職場の厳しい実態が報告されました。



# 規制緩和に立ち向かう

全港湾日本海地方本部 真島勝重書記長



06春闘について 港湾労働者に対して『個別賃金定年制』が5月17日から規制緩和により施行される。国交省は人・貨物など全分野に指示し規制される。トラック運賃など=許可制へ 自由競争になった。トラック事業では、中小・個人など厳しい実態に。過積載による事故が多発している。(5月17日全分野で規制緩和)2000年11月には、すでに6大港・隣接港など11港で先行実施されている。

港湾の整備・設備機械については国の整備計画で設備投資し事業主は投資しない。事業免許について、国県と交渉し規制をかけてきた。それが届出制になって簡単にやられてしまう。

安全対策について 国・県への取組み=料金の自由化~料金設定については労働者の労働力・要員配置が基準、それを下げられる。新規参入会社について『1・5倍』に基準を上げることができた。規制緩和に立ち向かう姿勢を示し国・行政などに理解させていく。企業の枠内だけでなく全体の運動の前進にがんばっていく。

# 要求の前進は労働者の団結

全国一般新潟合板支部 川崎晃書記長

組織統合された=自治労全国一般評議会へ名称を変更。『新潟合板』 大企業は4年連続の黒字。木材関係は不況産業=輸入品は国産品より安い。以前、国産品は良質と売っていたが、最近は輸入品も良くなってきている。そのため国産品が売れなくなった。それにより削減賃金ダウンにつなげている。退職者やパートを充当し要員減に。安全が確保できない。労災が発生している。要員削減による労働強化が要因。賃金は35才以下で基本給が19万円。残業しないと生活できない。現在は残業ができず賃金ダウン。春闘では要求額を8000円以上(要求額6000円+大手の格差2000円)

状況の厳しさを会社側は宣伝し労働者に要求を抑え込む。展望・要求の前進は労働者の団結だ。根拠と自信を持つ。



# 函館物販は六月・七月に 一緒に闘える運動を

## タクシーへの規制緩和

全自交新潟地連

海藤正彦書記長

タクシーの規制緩和は『厳しい現状』一〇数年にわたって攻撃がかけられている。収入ダウン=利用客の減はあるが規制緩和が大きな要因になっている。新規参入による増車全体で一八〇〇台、一四〇〇台の増になっている。新規参入を簡単に認め

ている。月給制ではなく『歩合給』。売り上げによる収入。運賃が下がる。収入は減になるが台数が増えれば売り上げは大、増収につながる。新規参入会社は、社会的責任は考えていない。厳しい勤務状況による事故が多発。それに対して会社は保障をしない。この現状をマスコミは報道しない。安全を確保するため国交省への交渉。NPOの福祉関係の会社が高齢者・障害者を送迎。一種免許で運営している。安全をどう確保し

ていくのか。すべての系統について同じ課題だ。春闘は『一万円の賃上げを要求』自信を持って。



地区春闘共闘会議

坂井雅博副議長

公務員のリストラは国労闘争から『構造改革』民間化・PFI法人化・市場化テスト・民間への解放。水道法=安全基準『水』の水質基準(幅がある)。技術的な判断は難しい。基準の委託化ができていく。『保育』=許可制と許可外(企業立の保育所は許可外)公立を民間への委託、民営化になっている。ベネッセ・ビジョン・営利のみの運営。営利目的=指定管

理者制度。民間化になると職員は一年雇用・黒字で無いと廃止。『憲法改悪』の攻撃が大きな原因。基本的人権が守られない。個人による自己責任。NPM=公共的なものをサービスとして置き換えるが民間でも可能となる。『非正規社員』が一番の攻撃の矢面になっている。労働組合に所属していない。この人達を守り団結する闘いに。一緒に闘える運動をつくること。労働組合に加入して一緒に闘う。

